

資産運用アドバイザー

尾藤 峰男氏



大統領選からトランプ氏は輸入品に高い関税をかけることを明言しており、それを公約通り実行している。今回の株価下落は、既に皆知っていた事実でも、市場がいつ下落するかは予想できないことをよく表している。

短期の売買で利益を得ようとしていると、こうした局面では損失を実現しやすい。いつも1%や2%の利ざやを取って利益を稼いでいても、2割も下がればそれまでコツコツ獲得した利益があつという間になくなってしまふ。株価の下落が不安になつたり、慌てて売って損を出したりするなら、投資スタンスを見直す良い機会だと捉えた方がいいだろう。

今、個人の投資家がすべきな

## 5年、10年先を見据える

日興証券に21年間在籍。投資アドバイザー、債券発行など証券業務に携わり、英国、カナダなど海外に勤務。2000年独立。

のは、5年、10年先を見据えることだ。米国の相互関税の話題は、川に投げられた石のようなものだと考えている。一時的には影響が広がるが、すぐにまた経済は流れ、正常化する。目先1カ月、半年、1年の大暴落は、長期で資産運用する個人投資家は関係ないと考えるべきだ。世界に幅広く分散した銘柄に、長期で投資するという基本的な姿勢を大事にしたい。

「人が貪欲になっている時は恐れ、人が恐れている時は貪欲になれ」。これは、リーマン・ショック時のウォーレン・ Buffett氏の言葉として有名だ。この言葉のように、今はバーゲンセールで買い場だと捉えるべきだと考えている。

世界情勢に影響されにくい質の良い優良株を組み入れておくのも選択肢だ。具体的には日本たばこ産業やJ-R東日本、三菱商事などだろう。